



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-48

(2025. 8. 4)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

とね かずゆき
上席主任研究員 刀禰 和之

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の個人向け貸出残高

ポイント

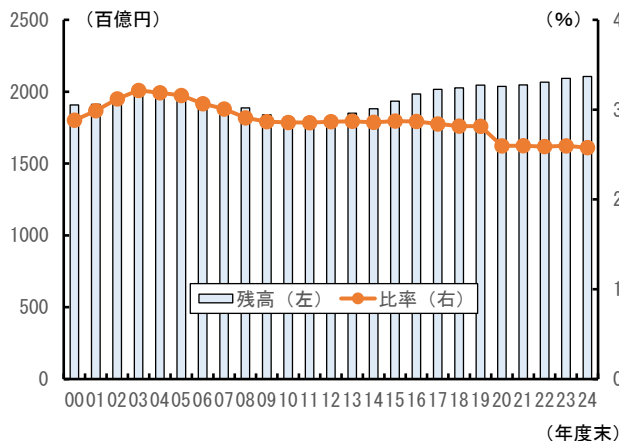
- 2024 年度末の信用金庫の個人向け貸出残高は、前期比 0.6%、1,332 億円増加の 21 兆 526 億円となり、4 年連続で前年度末を上回った。
- 2000 年度末の残高と比較すると 10.3%増に留まり、貸出金残高の伸び（23.4%）を下回って推移している。
- 2024 年度末の地区別の個人向け貸出残高は、九州北部、北海道などの 7 地区で前期比増加し、北陸、東京などの 4 地区で前年度末を下回った。
- 2024 年度末の信用金庫別の個人向け貸出比率（構成比）は、①20%未満が 27.1%、②20%以上 30%未満が 42.9%、③30%以上は 29.9%となった。

1. 全国状況

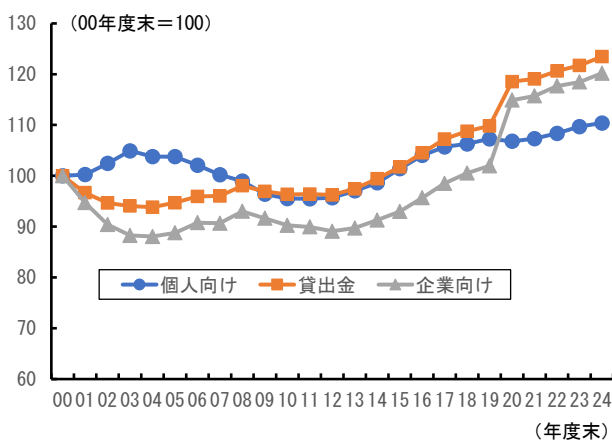
2024 年度末の信用金庫の個人向け貸出残高は、前期比 0.6%、1,332 億円増加の 21 兆 526 億円となり、4 年連続で前年度末を上回った（図表 1）。個人向け貸出の 8 割超を占める住宅ローン（17 兆 8,282 億円）をけん引役に、信用金庫の個人向け貸出残高は過去最高を更新中である。また「金利のある世界」の到来もあり、個人向け貸出に再注力する信用金庫は多いとみられる。

2000 年度末の残高と比較すると 10.3%増に留まり、貸出金残高の伸び（23.4%）や企業向け貸出の伸び（20.1%増）を下回って推移している（図表 2）。ただし前述のとおり住宅ローン残高はこの間 44.3%増加しているので、残高伸び悩みの背景には消費者ローンなどの減少があると考えられる。

(図表 1) 個人向け貸出残高の推移



(図表 2) 貸出金残高等との推移比較



(備考) 図表 1 から 4 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2024 年度末の地区別の個人向け貸出残高は、九州北部、北海道などの 7 地区で前期比増加し、北陸、東京などの 4 地区で前年度末を下回った（図表 3）。地区別の比率は東京の 17.9%から九州北部の 34.0%まで開きがある。また、2000 年度末の残高との比較では、北陸、東京などの 4 地区で 2 桁減だった一方で、九州北部は 37.6%増となる。

（図表 3）地区別の個人向け貸出残高

(単位：百億円、%)

地 区	00年度末	10年度末	20年度末	23年度末	24年度末	00年度末比		00年度末 比 率	23年度末 比 率	24年度末 比 率
						増減額	増減率			
北海道	68	70	66	68	69	1	2.3	23.2	19.2	19.4
東 北	76	66	61	62	62	△ 13	△ 17.2	30.5	22.8	22.8
東 京	391	327	298	284	281	△ 109	△ 28.0	29.7	18.2	17.9
関 東	384	359	431	461	468	83	21.6	30.6	31.0	31.0
北 陸	56	48	43	40	39	△ 16	△ 29.1	28.0	23.1	22.3
東 海	323	400	520	548	554	231	71.5	26.6	33.2	32.9
近 畿	382	342	393	391	388	5	1.5	27.9	22.4	21.9
中 国	92	85	92	95	97	5	5.8	28.9	27.3	27.3
四 国	43	38	33	34	35	△ 7	△ 17.6	38.8	28.0	27.7
九州北部	37	36	42	49	51	14	37.6	31.8	33.2	34.0
南九州	47	42	46	47	47	0	△ 1.0	29.0	27.7	27.4
全 国	1,907	1,821	2,037	2,091	2,105	197	10.3	28.8	25.9	25.7

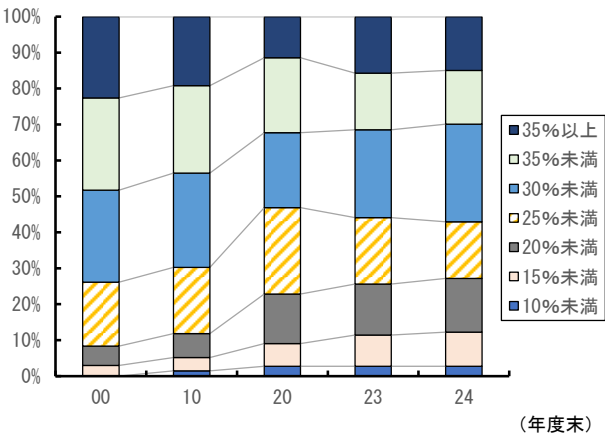
（備考）沖縄県は全国に含む。

3. 信用金庫別の状況

2024 年度末の信用金庫別の個人向け貸出比率（構成比）は、①20%未満が 27.1%（69 金庫）、②20%以上 30%未満が 42.9%（109 金庫）、③30%以上は 29.9%（76 金庫）となった（図表 4）。比率平均は 25.7%だが、中央値でみると 26.5%となる。また比率が 50%を超える信用金庫が 4 金庫あり、その所在地区を確認すると関東、四国、九州北部、南九州であった。一方、比率が 5 %未満については近畿に 3 金庫あった。

2000 年度末の構成比と比較すると、15%未満が 2.9%（11 金庫）から 12.2%（31 金庫）に上昇した一方で、35%以上は 22.6%（84 金庫）から 14.9%（38 金庫）にまで低下している。

（図表 4）信用金庫別の個人向け貸出比率（構成比）



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。